

## 「解決志向のクラスづくり」先生方の手応え

否定的なことを言わず、すべてを肯定的にとらえていただくことで、子どもたちは安心して、もっとよりよい自分になろう、よりよいクラスになろうと努力していた。

学級担任（中学校）

子どもたちは、肯定され、安心することで、自分が望むよりよい方向へ主体的に動き始めます。そのような動きが、自分にもクラスに対しても生み出されることを、担任が実感しています。

この章では「解決志向のクラスづくり」の実践校（小・中学校）の先生方が得た手応えがどのようなものかを、それぞれの立場の先生方の感想から紐解きます。

### 学級担任の感想から ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

このプログラムは、主に次の4つの要素から、構成されています。

- ①CA（クラスアシスタント）による観察・フィードバック
- ②友達同士の「いいところ探し」のワーク
- ③「素敵なクラスの状態」について考える
- ④クラスのスケーリング

その中で、学級担任が「役に立つ」と感じた要素を尋ねたところ、まず、4つ全部を挙げる担任が小・中学校ともにいることから、どの要素も子どもたちに役立つと担任に実感されているようです。

それとともに、小学校では、特に①と②が多く挙げられ、中学校では、①と④、また②と③が挙げられるなど、担任や子どもたちの状態によっても役立つと感じられるプログラムの要素にバリエーションがあるようです。

小学校の担任では、観察して、できていることをフィードバックし、子ども同士でも「いいところ」を探して認め合うという、この「解決志向のクラスづくり」実施マニュアルの中核的要素である〈ステップI〉と〔学級活動A〕の手応えが大きいようです。

中学校の担任では、「素敵なクラスの状態」について考えることや「クラスのスケーリング」という〈ステップⅡ〉と〔学級活動B〕の手応えが実感されており、中学生において、客観的にクラスを見つめ、よりよいクラスを主体的につくっていくことに取り組む意義が大きいようです。

プログラムのすべてが子どもたちにとって役に立つと思うが、担任としてクラスの雰囲気はよくなったと特に感じたのは、CAが来て観察し、その様子を子どもたちに知らせることと、クラスのスケーリングを行うことである。それは、スケーリングのシールを貼るときに、周りがどう考えているのかを知るといった広い視野をもつ姿勢や、外側から自分たちのクラスを見るという姿勢につながったからである。

学級担任（中学校）

子どもたちにとっては、普段話さない子とも何気なく会話をするきっかけになったのでは、と感じた。子どもたちの感想にもあったが、「周りから見た自分、または、クラスを外側から見てどう思うかということを知ることのできるプログラム」であったと感じた。

最初は、授業外の活動などに対して面倒に思ったりする子どももいたが、感想を読むと、どれも肯定的な感想が多く、子どもたちの心の変化を感じられた。

このプログラムを実施する前に、CAとお話させていただいたとき、私は、このクラスの子どもたちがもっと相手の立場に立って物事を考えることができるようになるよと思っていた。しかし、今回のプログラムを通して、相手の立場に立つためには、まずは、自分の立場を外側から確認することが何よりも大切なのだということに改めて気づかされた。また、そのために、子どもたちに対して、さまざまな場面で、自分を外側から見る機会、互いに認め合う機会をつくっていかなければならないと感じた。

観察後の様子を伝えていただいたことで、その授業の振り返りにもなり、今後、個人的に、同じようなことをやってみようと思った。スケーリングを毎日やるのは難しいが、一週間のうちの最後の日などにやってみるのもよいと思った。

今回のプログラムを通じて、子どもたちの心は確かに成長し、また、クラスのよいところに改めて気づいたところが多々ありました。

CAには少ないお時間の中、ご迷惑をおかけすることも多かったかとは存じますが、本当にありがとうございました。

学級担任（中学校）

担任がこの経験から、子どもたちの新たな可能性に気づき、「解決志向のク